

詩部門優良賞

くだとか

盛岡第四高校 3年 高嶋こはく

常に追われて
忙しなく過ぎていく
一瞬に
生を感じる

苦しい
しんどい
辛い
痛い
その中できつと
生きていることに安堵する

くだらないことで
腹がよじれるほど笑い
翌日に筋肉痛になるほどに

意識しなくても膨らむ肺に
コントロールできる瞬きに
人によつて変わつてしまふ態度に
卑しい心の動きにも

ささやかな愛を

滑稽なほどに心を乱し
滑稽なほどに恥をさらす

それが青春だとか
喜ばしいことだとか
思ひ出だとかいうのなら

とことん馬鹿になってやればいい

けたたましい目覚ましに
舌打ちをして
重い上体を起こす

不平不満と
素直になれなかった言葉のなりそこないを
いつか言おうと撫でながら

私は今日も悪態をつく